

編集後記

●今回のキャッチアップには、東京都下水道局の北多摩二号水再生センターで稼働している「雨天時高速下水処理システム」をとりあげました。合流式下水道の改善技術として、国の「下水道技術開発プロジェクト・SPIRIT21」において研究開発がおこなわれた技術の一つですが、昨年の稼働開始からめざましい成果をあげています。

●メッセージは、清水慧(社)全国上下水道コンサルタント協会会長に「未来に残すもの」と題してご執筆いただきました。清水会長は、近代に入っからの技術と、人類がこれまでに残してきた技術とを対比させ、「20世紀に出来た技術で、1000年、2000年後に残るものはあるか?」と問いかけるとともに、利便性だけを追い求める生活を改めなければならないと人間中心の考え方に警鐘を鳴らしています。

●今号では、下水道事業100周年を迎えた広島市の田中義則下水道局長をゲストに迎えて、本機構の松井大悟理事長と行った「対談」を掲載しました。田中局長は、広島市が掲げる「下水道ビジョン」を推し進める中で、市民の視点からの下水道の新たな役割の模索と、さらなる情報開示、PRの重要性を指摘しておられました。是非ともご一読く

ださい。

●特別寄稿は、先に開かれた第42回下水道新技術セミナーで「エネルギーと環境問題」をテーマに行った手塚哲央京都大学大学院教授の講演を編集して掲載しました。手塚先生は、エネルギーに対する価値観の変換がどのように行われてきたかを示しながら、地球温暖化防止を背景にした世界の動きと国内における動向を紹介しています。

●エンジニアングリポートは、資源としての下水汚泥の新たな活用方法である「リン酸肥料原料を確保するための下水汚泥炭化技術」と、集中豪雨による浸水被害の軽減を目的に宅地内に設置する「小規模雨水貯留浸透システム」の二つの共同研究の概要をわかりやすくまとめました。

●トピックスは、東京都下水道局が民間企業とともに取り組んでいる下水汚泥の炭化燃料化事業の現場を取材し、その技術の概要と事業スキームについてご紹介いたしました。

●ユーザーリポートは、新発想から生まれ、現在各地の下水処理場で活躍する「ベルト型ろ過濃縮機」をとりあげました。稼働開始から今年で5年目を迎える荒尾市浄水センターの1号機を取材し、稼働状況などをお聞きしました。(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、上ノ土俊(社)日本下水道光ファイバー技術協会専務理事のお孫さんの渡辺海葵(みき)ちゃん(3歳)です。

土管の中から愛らしい笑顔をのぞかせている海葵ちゃん。一枚の絵のような景色をバックにその可愛いらしさが画面いっぱい溢れてくるようです。

この写真は、昨年の冬に千葉の富津岬に家族で遊びに行った時のものだそうです。この日は朝5時に起きて、2日間だけ特別に走るSLを家族で見に行きました。初めて見るSLに海葵ちゃんも大興奮。真冬の富津岬は風が強くとっても寒かったのですが、持ち前のパワーを発揮して浜辺を元気に走り回っていたそうです。そのワンパクぶりに手を焼きながらも、目を細めているおじいちゃんの姿が目につかびますね。

題 字 財下水道新技術推進機構会長・葉山莞児
(大成建設株式会社代表取締役会長、(社)日本土木工業会会長)の揮毫によるものです。

季刊 下水道機構情報 Vol.1 No.3
2008年1月(冬季号)

平成20年1月20日発行 発行者 葉山莞児
編集者 松井大悟
企画者 谷戸善彦

編集委員：栗原 秀人／中里 卓治／鈴木 勇／小野田 吉恭／
目黒 享／鳥海 弘／秋葉 竜大／長岡 英明／後藤 太

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512